

晴読雨読

『新版 文献管理PCソリューション - PubMed /医中誌検索から論文執筆まで』

讃岐美智義 著

東京 秀潤社

2007年6月4日発行

B5変版 330p 定価3,800円+税



当院において文献管理ソフトを使っているという医師、看護師は名前を挙げるができるくらい少ない。あるいは使用しているけれど私がそれを知る機会がないのかもしれない。医局には、整理されているかいないかの違いはあるが、机上に文献の山を見受けることがある。文献管理ソフトを使っていない理由として考えられるのは、PubMedがあればいつでも検索できる。必要な文献や情報は頭の中に入っている。ソフトが高額である。忙しすぎる。全文はコピーで入手することがほとんど、あるいは手元にコピーで置いておくと安心だから。などだろうか。

本書は4章からなる。文献検索の基礎、文献管理ソフトウェアについて、文献検索・整理のステップアップに必要なPC知識、論文を読み解くための道具についてである。

「文献検索方法」では、PubMed、医学中央雑誌Web版、Googleの検索方法について書いてある。現役の医師が書いているため、検索について紹介しておくべきポイントとして参考になった。

「文献管理ソフトの使い方」では、EndNote、GetARef、RT2、RefWorksについて紹介している。検索結果をプリントアウトして終わりにするのではなく、データで保存することで投稿時に必要な参考文献リストを自動的に作成できるソフトだ。それだけではなく全文へのリンク機能も持たせて文献管理・整理をデータベース上で行える。RT2は、EndNoteが日本語文献を整理できなかった頃に著者が開発したフリーソフトで、ファイルメーカーProを使用してカスタマイズが可能である。

「文献管理ソフトを使うために必要なPC知識と論文を読み書くための道具と、PC環境について」では、検索ツールとしてのPC管理術や、PDFの作成方法、ワープロソフトの実践的な使い方が紹介されている。

ところでワープロソフトやインターネット検索をする際にレッスンに通ってその技術を習得した人は少ないのではないかと思う。習い覚えの知識で使っている人が大半ではないだろうか。私はそれらの質問を特に医師から受ける機会があり、その都度ネット上で、あるいはソフトに付属しているマニュアルと格闘してきた。本書は医師が著わしたもので、疑問に思うことや知っている便利な機能が同じであるため、大変役立つ。

文献管理ソフトを活用することで、利用者の研究・臨床活動がより活発になるのではないだろうか。利用者が「一利用者」として使えるようにガイドできる知識を図書館員が身につけることは有用だと思う。

(関西労災病院図書室/寺澤裕子)